

都賀公民館・市民ギャラリー・いなげ共催事業

アートでコミュニケーション

「椅子のリメイク」と「等身大アート」

■椅子のリメイク

2022/7/30（13：00～16：00）

■等身大アート

2022/7/31（13：00～16：00）

■参加者 4家族12人

■会場 都賀公民館 講堂

■作品展 2022/9/6～9/18

■会場 千葉市民ギャラリー・いなげ

ねらい

ものづくりを通してさまざまな人たちとコミュニケーションを図る

作る _____ 「製作者（講座参加者）同士」のコミュニケーション

展示する _____ 作品を通して、「製作者」と「鑑賞者」とのつながり

使う _____ 作品を通して、「製作者」と「利用者」とのつながり

講座の様子・成果と課題

作る 椅子のリメイク ～今あるものを工夫して残す取り組みを～

何年も使われず、都賀公民館の倉庫に眠っていた椅子を「コロナ収束後どのようなことをしたい？」をテーマに布に絵を描き、その布を椅子の背もたれと座面にタッカーで貼りつけてリメイクした。埃やカビで汚れていた事務的な椅子が、「ロンドンに行きたい」「マスクを外して遊園地に行くこと観覧車から雲をちぎって遊びたい」など子どもたちの前向きな気持ちを表現したカラフルでポップな明るい椅子に生まれ変わった。



等身大アート ～家族の愛やつながりを感じる作品に～

紙の上に横になって、ポーズを取り、家族になぞってもらった自分の形に、絵の具で着色し、「今やりたいこと・これからやりたいこと」をテーマに等身大作品を作った。家族の等身大作品を組み合わせることで、観る人に「家族のあり方」や「つながり」を感じてもらえる作品になり、とても温かな「愛」を感じる素敵な事業になった。会話をしながら家族と作る姿がとても微笑ましかった。



展示する 「千葉市民ギャラリー・いなげ」にて作品展 ～地域資源を生かす / 作品を通して感じてもらう～

①地域資源を生かす

都賀公民館と同じ稲毛区にある市民のための展示施設「市民ギャラリーいなげ」と共催事業として開催

- ・椅子のリメイク…市民ギャラリーの職員が講師に
- ・等身大アート…講師を紹介していただく
- ・作品の展示（2022/9/6～9/19）



②作品展示は、作品を通して製作者と鑑賞者のつながりの場に

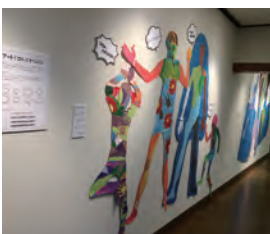
～製作者を身近に感じられるように展示の工夫をする～

- ・タイトルの他、製作者の名前（ニックネームも可）、年齢、趣味を入れてどのような方が作ったのか興味を持って鑑賞してもらう。
- ・複数の吹き出しデザインやフォントの中から製作者が好きなものを選び、メッセージを入れて等身大が話しているようにした。これによりさらに、作品が鑑賞者とつながりを持てるようになった。

③多くの方に活動を知ってもらう機会に…展示期間中、多くの方に観ていただいたことは大きな成果となった。

使う 都賀公民館内に椅子を配置し、空間を華やかに

展示後、椅子を公民館内に配置している。子どもの描いたカラフルな椅子により公民館が華やかに変化した。



お母さんと3人のお子さんの作品。ハートの吹き出しには「3人の兄弟のママで幸せ」というお母さんの言葉。8歳、5歳の男の子と一緒に赤ちゃんをおんぶしながら描いている姿がとても印象的だった。

受講生の感想や 今後に向けて

全体を通してとても面白い挑戦的な内容の取り組みになった。受講生からは「親子の会話が増えた。子どもにもやさしくできました。こうじゃなければならぬ、ではないですね。アートも育児も。それが改めてわかりました。」という声や、館内の様子を見て、「この椅子たちがあるだけで、楽しい気持ちになりますね」という利用者からの嬉しい声もあった。

参加者はファミリー世代が多く、年齢制限を設けていない講座であるからこそ、参加年代に関しては課題が残ったと感じている。来年度は、市民ギャラリー・いなげと『椅子プロジェクト』を展開していく。コミュニケーションを図ることを根底に、ものを捨てない努力をするための取り組みとして、クリエイティブな観点からワークショップを行う予定だ。「環境問題」という直接的な表現をせずに、多くのつながりを持ちながら、誰もが楽しんで気付きを得られるような講座にしたい。カラフルな椅子が、人々の気持ちを明るくさせてくれるよう社会への小さな働きかけとして、まずは2館で開催する。等身大アートは『等身大アバターと家族アイテムをつくろう』という家族のつながりを、さらに意識したものとなるような内容を考えている。